

性と生の迫間で

作：鈴木 麻名実

【登場人物】

あい

こころ

ゆき

まりあ

れん

阿部直人

氷室亮介

新藤和彦

里中康太

一ノ瀬彰

シテイホテル。

スライド「2024年1月」「フリー 90」が映る。

部屋で待つ阿部。

あい、部屋の扉の前につきチャイムを鳴らす。

阿部、扉に向かい開ける。

あい 阿部さんですか？

阿部 どうぞ、入って。

あい 失礼します。

二人、部屋に入る。

阿部、ハンガーラックのところに向かう。

阿部 コートかけるよ。

あい あ、ありがとうございます。荷物、ここ置いてもいいですか？

阿部 いいよ。

あい (荷物を置きながら) 失礼します。

あい、コートを脱ぎ阿部に渡す。

阿部 (コートをハンガーにかけながら) 今日寒いよね。部屋、寒くないかな？

あい 今のところ大丈夫です。

阿部 そう。寒くなったら言っただね。

あい ありがとうございます。(外を見て) 外、すごい綺麗ですね。

阿部 そうだね。ここ、夜景綺麗で有名みたい。

あい へー、そうなんですね。

阿部、使い捨てスリッパを取り、あいに渡す。

阿部 はい、これ。良かったら使って。
あい すいません、じゃあ。(スリッパを履く)
阿部 新人さんなんだよね？
あい はい、今日からで。(床に膝をついて) あ、私あいって言います。
阿部 あいちゃん、よろしくね。お店、連絡しなくていいの？
あい あ、そうでした。すいません、ちょっと連絡しますね。

あい、店に電話をかける。

あい ……あいです、お部屋入りました。……はい、頑張ります。じゃあ失礼します。
(電話を切る) あ、タイマー！ (急いでタイマーをセットする)
阿部 そんなとこ座ってないで、こっち座れば？
あい 失礼します。(椅子に座る)
阿部 (テーブルに置いておいた三万円を渡し) はい。
あい ありがとうございます。お釣りー
阿部 いいよ、チップってことで。
あい え、でも…。
阿部 ちょっと遅いお年玉。ってお年玉にしては安いか。
あい お年玉って、そこまで若くないですよ。
阿部 僕からすると全然若いよ。むしろ気持ち程度でごめんね。
あい ……あの、本当大丈夫です。
阿部 どうして？
あい 私本番はしないって決めてるので。(テーブルの上に四千元を置く)
阿部 あーなるほどね。
あい なるほどうって何ですか。
阿部 別にそういう意味じゃないから安心して。それに流石に四千元で本番やれるとは思ってないよ。

阿部、テーブルに置かれた四千元を取り、あいには渡す。
あい、おずおずと四千元を受け取って、お財布にしまう。

あ い なんか、すいません。
阿部 僕も強引だったかもね。ごめんね。
あ い そんなことないです！ その、お風呂！ お湯ためてきますね！

あ い、鞆からイソジンとグリンズを持ってお風呂場に向かう。
暫くしてお風呂場から戻ってくる。

あ い すいません、バタバタしちゃって。はじめてで慣れてなくて。
阿部 風俗自体はじめてなの？
あ い はい。だから阿部さんがはじめてのお客さんです。
阿部 なんで風俗で働こうって思ったの？
あ い 奨学金早く返したくて。それにお金に余裕あれば色々買えるし、旅行とかもできるじゃないですか。
阿部 まあね。でも君彼氏とかいないの？
あ い もう一年位いないです。最後に付き合った人と色々あって疲れちゃって暫く彼氏もいやーって感じだし、バツて稼いで社会人になるとき辞めればいいかなって。それにソープと違って本番するわけじゃないし。
阿部 そこは大事なんだ。
あ い 大事ですよ！ セックスは大切な人とだけしたいじゃないですか。
阿部 これからやることだってセックスじゃないの？
あ い そう言われてみれば、そうなるのか。
阿部 君、素直だね。
あ い え、そうですね。……そろそろお風呂入りますか？ お湯もたまっただろうし。
阿部 そうだね。

二人立ち上がる。

あ い、阿部の服を脱がそうと阿部に近づくが、阿部は自分で服を脱ぎ始める。

あ い あ。
阿部 何？
あ い 服、お手伝いしますよ？
阿部 あー、じゃあお願いしようかな。
あ い はい。

あい、阿部の服を脱がす。

阿部 (脱がされながら) ありがとう。
あい 本当はもつと自然に脱がせられたら良かったんですけど。
阿部 いいんじゃない、初々しくて。
あい ですかね。なんか阿部さんに甘えすぎてる気が。
阿部 じゃあここから挽回していくってことで。
あい 挽回頑張ります。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「32分」

再び明かりが入る。

阿部、バスローブ姿でソファに座り、スマホを弄っている。

あい、バスローブ姿で、洗面所でうがいをしている。

あい ボーイさんの言ってた通りだった。

阿部 え？

あい 阿部さんは優しい人だから安心してくださいって。

阿部 そう？ なら良かった。

あい なんか頑張れそうです、この仕事。

阿部 色んなお客さんいると思うし、頑張ってるね。

あい 色んな。

阿部 僕がいつも指名してる子はよく愚痴言ってるから。

あい そうなんですか？

阿部 うん。このクソ客共がーってよく言ってる。

あい クソ客。

阿部 だから君も気を付けなね。

あい はい。あれ？ 今日は何でその方指名しなかったんですか？

阿部 急遽休みになったみたいで。お店から君を勧められてね。

あい そうだったんですね。なんかその方に申し訳ないです。

阿部 彼女は気にする人じゃないから。

あい わかんないじゃないですか、そんなの。
阿部 いやー、僕いつもあしらわれてるからね。
あい お客様なのに？
阿部 そう。可哀そうでしょ。
あい でもずっとその方指名してるんでしょ？ 一途なんですね。
阿部 どうかな？ 結局君とこうしてるわけだし。
あい 確かに。でもそっか、そしたらもう阿部さんとは会えないのかな。
阿部 もしかして営業されてる？
あい そんなつもりはなかったんですけど。ただ阿部さん、元カレにちょっと似てて。
阿部 元カレって一年前に別れた人？
あい うん。
阿部 そんな年上だったの？
あい ううん、同じ年。雰囲気かね、ちょっと似てるかもって。
阿部 へー。何、まだ好きなの？
あい いや、それはないけど。
阿部 けど？
あい ……モヤモヤしてるといえはしてる。
阿部 そもそもなんで別れたの？
あい 彼、ゲイだったの。
阿部 え？
あい ゲイ。ウケない？
阿部 いや、ウケはしないけど。ていうか、ゲイだったら君と付き合い合わないんじゃない？
あい それが彼曰く、自分がゲイなのかどうかもわかってなかったんだって。で、私と付き合ってみて、やっぱりゲイなんだって自覚したらしいの。それもほんとにかよって感じだけど。こんなんだったら私が告白したときに普通に振ってくれれば良かったのに。思いません？
阿部 自分がゲイだったこと、認めたくなかったのかもね。
あい ……阿部さんもゲイとかレズの友達いるの？
阿部 なんて？
あい 随分理解ある感じだから。
阿部 あー、まあ何人かね。
あい そうなんだ。私さ、もし友達にそういう人がいたら普通に受け入れられると思ってたの。でも別れた後、彼が男友達に肩組んでたりするの見たら、気持ち悪い、関わりたくないって思っちゃって。偏見とかないつもりだったけど、全然寛容なんかじゃなかった。
阿部 ……身近だったからこそ、そう思ったんじゃない？

あい そうなんですかね。

阿部 そう思うよ。

あい なんかごめんさい、こんなこと話しちゃって。

阿部 いや、いいよ。僕から聞いたことだし。

あい ホント優しいですよ、阿部さん。でも良かった、こうして阿部さんと話せて。誰にも話したことなかったの、このこと。

阿部 そうなんだ？

あい だって友達に話したら彼がゲイだってこともばれちゃうし。

阿部 君こそ優しいと思うよ。

あい そうかな。……また普通に話せるようになったらいいな。

阿部 ……なれるよ、きつと。

あい、阿部の頬にキスをする。

あい そろそろお風呂入りましょうか？

阿部 そうだね。入ろうか。

暗転。

ラブホテル。

スライド「2024年4月」「写真指名 60」が映る。

氷室が電話をしている。

氷室

……明日？ また急だな。……いや、夕方以降なら行けるけど。……軽井沢の現場だよ。こっちもあとちよつとで終わりだからさ。……まあいいよ。そっちもお疲れ様。……はい、また。(電話を切る)

……ここ、浴槽にお湯をために行っていたが戻ってくる。

……電話終わりました？

氷室

(スマホを弄りながら) ああ、ごめん、ちよつと……。

……お仕事ですか？

氷室

まあね。

……休日なのに大変ですね。明日は休めるんですか？

氷室

明日も仕事。ここ三ヶ月休みなくてさ。

……三ヶ月もですか？ え、GWはさすがに休めます？

氷室

休めないだろうね。ま、仕事好きだからいいんだけど。

……えー素敵。お仕事頑張ってる方って格好良いですよ。

氷室

そう？

……はい。でも無理しないでくださいね。風邪流行ってますし。

氷室

流行ってるねー、会社でも熱出たとかで休んでる奴いてさ。

……あーやっぱり。

氷室

本当人いなくて大変でさ。なのに来月また一人辞めるんだよ。新しい人入っても

長続きしないし、若い子ってどうしてすぐ辞めるんだろうね。

……ホントどうしてなんですかね。

氷室

……ここちゃんはこの店長いの？

……一年位です。

氷室

へー。その前は？ 何やってたの？

……普通に会社員やってました。

氷室

……なんで辞めたの？

こころ ちょっとお金が必要で……。

氷室 何？ やりたいことでもあるの？

こころ そういふのは特にないんですけど。あ！ お疲れだったらマッサージでもしまし
ようか？ お湯たまるのにもう少しかかると思いますし。

氷室 あーありがとうございます。

こころ、背中側にまわって肩をマッサージする。

こころ ガチガチですね。

氷室 疲れとれないんだよね。

こころ お休みなかつたら疲れ貯まりますよ。

氷室 ……あー、そこいいね、気持ちいい。

こころ ここですか？

氷室 うん、そこ。……こころちゃん、彼氏にもこういうことしてあげるの？

こころ ……私彼氏いないので。

氷室 そうなの？ あー、でもこういう仕事してたら難しいか。

こころ ……。

こころ、強めにマッサージする。

氷室 いたたた。こころちゃん、ちよつと痛いかも。

こころ あ、すいません。強すぎましたかね。

氷室 大丈夫。でももう肩はいいよ。

こころ、後ろから腕をマッサージする。

氷室、こころの左腕のリストカットの痕に気づき、こころの左腕を掴む。

氷室 何これ？

こころ あー前にちよつと。最近はやってないんですけど。

氷室 (大きな溜息) こころちゃんさ、こんなこととして親に失礼って思わないの？
こころ ……。

氷室 俺は自分の娘がリストカットなんてやってたらショックだけど。

こころ

そうですね、そうだと思います。

氷室

本当にそう思ってたらリストカットなんてしないでしょ。ていうか自分のことばかり考えてるからそういうことができるんだよ。さつきもさ、お金が必要で働き始めたとか言ってたけど、ただ単に前の職場で人間関係がうまくいなくて辞めたとかじゃないの。

こころ

それは……本当に色々あって……。

氷室

色々って。そうやっていつも逃げてるんじゃないの？ それに、君の言う色々が何なのか知らないけどさ、こころちゃんより苦労してる子なんて沢山いるんだから、悲劇のヒロイン振るのどうかと思うけどな。

こころ

……。

氷室

何？ 俺おかしなこと言ってる？

こころ

いえ、全然おかしくなんかありません。私が弱かっただけで。本当にその通りだと思いません。

氷室

なんか萎えたな。他の子にチェンジできないの？

こころ

……ちよつとお店に確認してみないとわからないです。

氷室

じゃあ確認してよ。

こころ、鞆からスマホを取り出し、お店に電話をかける。

こころ

(電話に)……すみません、お客様がチェンジ希望されて……あの、私のリストカットの痕を見て気分悪くされたみたいで……はい、すみません……(氷室に)あのチェンジする場合、他の女の子がくるの二時間後になるみたいなんですけど、大丈夫ですか？

氷室

そんなに時間かかるの？

こころ

そうみたいです。

氷室

じゃあ、君でいいよ。

こころ

(電話に)あの、チェンジなしでそのままでもいいみたいです。……はい、はい、すみません。失礼します。(電話を切る)すみません、チェンジできなくて。見えにくいように照明暗くしますね。あ、でも照明暗いのお嫌いでしたか？

氷室

別に。(服を脱ぎながら)……何？ 風呂、入るんでしょ。

こころ

……あ、はい。入りましょうか。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「18分」

再びシャワーの音。

明かりが入る。

氷室、ころろ、服を着ている。

ころろ、着替えが終わると、氷室から距離をとってベットに腰かける。

氷室、着替えが終わるとベットパネルに向かい、照明を明るくする。

そして、ころろの横に腰かけ、ころろの太ももに触れる。

ころろ、自分の左手首を右手でおさえる。

氷室 あ、いいよ。隠さなくて。もう気にしてないし。

ころろ え？ でも……。

氷室 ころろちゃん、頑張ってくれたしね。俺もあんなに頑張ってくれたら許しちゃうよ。

ころろ はあ。

氷室 そういえばさ、ころろちゃんって個人でやってないの？

ころろ 個人ですか？

氷室 うん、店通さない方がお金入るでしょ？

ころろ 私、そういうことはやってなくて……。

氷室 なんて？

ころろ お店からも禁止されてますし。

氷室 でも皆普通にやってんじゃないの？ それにお金貯めて早く辞めた方がいいんじゃない？ こんな仕事長く勤めるもんじゃないでしょ。

ころろ それはそうなんですけど。

氷室 それにいつまでも彼氏できないよ？ 彼氏欲しいでしょ？

ころろ 私、別に誰かと付き合いたいと思わないので。

氷室 またまたー。

ころろ それに今はお金貯めることでもいいじゃないですか？

氷室 そんなこと言って、寂しくなったりしないの？

ころろ 氷室さんは一人が寂しいからご結婚されたんですか？

氷室 俺？

ころろ (氷室の結婚指輪を指して) 結婚してるんでしょ？

氷室 ああ。

ころろ ずっと結婚指輪つけてるなんて、ご家族大事にされてるのかなって思ってたんですけど。

氷室 あー娘は可愛いけどね。妻とは全然話しないし。

こころ そうなんですネ。

氷室 本当、女の人は子供産むと変わるよね。

こころ そう言いますよね。でも結婚した当初は奥さんのこと愛してたでしょ？

氷室 まあそうじゃなきゃ結婚しなかったけど。

こころ けど？

氷室 昔の話だしね。こころちゃんが寂しくなったときは連絡してくれてもいいよ。

こころ それは心強いですね。

氷室のスマホの着信音が鳴る。

氷室 (電話をとって) もしもし……ああ、白石様。お世話になってます。どうなさい

ましたか？ ……お湯が出ない？ ……あー、説明書を見てもわからないと。…

…わかりました。今から向かいますので。えー(時計を見て) 十八時前にはつけ
ると思いますので少しお待ち下さい。……いえ、大丈夫です。じゃあ失礼します。

(電話を切る) ごめん。ちょっともう出なくちゃいけないから出るけど、

こころちゃんも出れる？

こころ 車きてるかわからないので時間までここで待たせてもらってもいいですか？

氷室 いいよ。

こころ すいません。これからお仕事ですよ？ 頑張ってください。

氷室 ありがとう。(こころにキスをする) じゃ、また。

こころ また。

氷室、部屋を出ていく。

こころ、扉が閉まったのを確認した後、手の甲で唇をぬぐう。

そして、いきおいよくソファに向かいドスンと背もたれにもたれる。

こころ あー、死にてー。

暗転。

ラブホテル。

スライド「2024年10月」新規指名 180」が映る。

ゆき 今日は一八〇分も予約してくださいってありがとうございます。

新藤 一八〇分ってやっぱ長いんですか？

ゆき そうですね、九〇分とか一二〇分が多いですけど、長い人は四時間とか五時間で予約する方もいますよ。

新藤 そんな長くて何するんですか？

ゆき ご飯食べたり、買い物行ったり。あとは映画とか、サッカー観戦とかも行ったことあります。

新藤 へー、普通にデートですね。

ゆき 新藤さんはいつも一八〇分で利用されるんですか？

新藤 いや、俺こういうところはじめてで。

ゆき そうなんですネ。

新藤 だからコース時間とかも普通ってのがよくわかんなくて。

ゆき だからか。

新藤 え？

ゆき いえ、はじめての方でロングコース頼まれる方、あんまり多くないので。

新藤 そうなんですか？

ゆき はい。だって好みじゃない子に当たっちゃったら長い時間はしんどいじゃないですか。

新藤 確かにそうですね。

ゆき でしょ？ あ、ていうか私で大丈夫でした？ イメージと違ったりしました？

新藤 いや、むしろ写真より可愛いなって。

ゆき ホントに？

新藤 はい。

ゆき ありがとうございます。今日は折角だし、ゆっくりしましうね。

新藤 あの、後々せかせかするの嫌だから、ゆっくりするのは後でがいいかな。

ゆき そうですよ、わかりました。

新藤 それにもかしたら時間かかるかもしれないわ。

ゆき お酒飲んできたとかですか？

新藤 お酒は飲んでないんだけど。

ゆき ……もしかして遅漏ですか？

新藤 ……。

ゆき 大丈夫です！ 遅漏だってお客様たまにいらっしやいますけど、皆さんなんだかんだいけてたりしますよ。それに時間もたっぷりあるし私頑張りますので。とか言ってイかせられなかったらごめんなさいなんですけど。

新藤 そうじゃなくて。…妻に勃たなくなっちゃって、暫くセックスしてなくてね。

ゆき あー。奥さんに勃たなくなるって言う方、結構いますよね。あれ、何でなんでしょうね。

新藤 ……。

ゆき で、他の人には勃つのか確かめにきたって感じですか？

新藤 まあ、そういう感じ。

ゆき なるほど。じゃあ私責任重大ですね！

新藤 そんな責任負わなくてもいいけど。

ゆき いやいや、精一杯務めさせて頂きますので、よろしくお願いします。

新藤 こちらこそよろしくお願いします。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「26分」

明かりが入る。

新藤、バスローブを着ている。

ゆき、洗面台でうがいをしている。

新藤、バスローブを着終わると、もう一枚のバスローブを洗面台に持っていく。

ゆき、新藤からバスローブを受け取り着る。

ゆき イけたね。

新藤 そうだね。

二人、笑い出す。

ゆき ていうか元気すぎて、イけないかもって心配すぐなくなったし。

新藤 俺も久しぶりに勃って、これイけるかもって思った。

ゆき にしても、時間すごい余っちゃったね。まだ二時間近く余ってるけど。え、もう

一回する？

新藤 いや、大丈夫。
ゆき だよね。じゃあ、ゆっくりしよ！ あ、何かあったかいの飲む？
新藤 いいね。
ゆき コーヒー、紅茶、緑茶どれがいい？
新藤 じゃあ紅茶で。
ゆき 紅茶ね、おっけー。

ゆき、電気ケトルを持って、洗面台に向かい、水を入れる。
新藤、ベットに大の字に寝転がる。
ゆき、水を入れた電子ケトルを持って、洗面台から出てくる。

ゆき あ、くつろいでる。
新藤 大きいベットはいいねー。
ゆき (紅茶の準備をしながら) わかる。私家じゃぬいぐるみにベット占拠されてるから大きいベットにしたいんだけど、部屋自体が狭いからできなくて。ホテルのベット、ホント憧れる。
新藤 あー、写メ日記だっけ？ それにもぬいぐるみ載せてたね。
ゆき え、見てくれたんだ？
新藤 うん。
ゆき なんぞ照れるな。
新藤 昨日だっけ。仕事でいいことあったって書いてあったけど、風俗以外でも仕事してるんだ？
ゆき そう、保育士の仕事してて。
新藤 へー、子供好きなんだ？
ゆき うん。
新藤 可愛いよね、子供。
ゆき 新藤さんも子供好き？
新藤 そうだね。それで教師やってる位だし。
ゆき へー！ 学校の先生？
新藤 そう。中学で社会の授業教えてんの。
ゆき そうなんだ。でも中学生位の時期って色々大変そう。
新藤 まあ確かに色々あるかな。
ゆき やっぱり。ちょうど思春期の時期だし気を遣うよね、きつと。
新藤 そうだね。親御さんにも気遣うし。
ゆき モンスターペアレントってやつ？

新藤 すごい人たちがいるんだよ。
ゆき なんかテレビとかで見えるけどやっぱいるんだ。こわー。
新藤 子供を想ってやってることだってわかってるんだけど、なかなかね。
ゆき でも過保護すぎってどうかと思うけど。
新藤 ゆきちゃんは良いお母さんになりそうだよね。
ゆき なんぞ？
新藤 良い意味で厳しそう。
ゆき 良い意味で？
新藤 うん。きつと子供とも良い距離感を築けるんだろうなって思うし。
ゆき えー、どうだろう。
新藤 それに保育士もやってるなら子育てとかもうまくやれそうだし。
ゆき でも、実際子育てしたら違うと思うし。
新藤 まあそうなんだろうけど、想像できるよ、ゆきちゃんがお母さんしてるころ。
ゆき そんな私なんて……。
新藤 謙遜しないでよ。
ゆき ……っていうか、実は私子供産めなくて。無理なんだよね、お母さんになるとか。
新藤 ……ごめん。
ゆき ううん、全然気にしないで。仕事で沢山の子たちに会えて、それだけで幸せだから。……紅茶、できたよ。

ゆき、紅茶をテーブルに運ぶ。

新藤 俺も駄目だったんだよね。
ゆき え？
新藤 子供。なんか精子の形がおかしくて。
ゆき ……そうなんだ。
新藤 それでも正常な形の精子がゼロってわけじゃないから、毎月タイミング法やってたんだけど、子供作る為だけのセックスに疲れちゃってさ。そしたら遂に勃たなくなるし。
ゆき それだけプレッシャーだったってことでしょ。
新藤 まあ。でも妻に申し訳なくて。
ゆき 奥さん、子供欲しいって言ってるんだ？
新藤 今は言わないけど前は言ってたかな。
ゆき 不妊治療は？ しなかったの？
新藤 三回試したけどダメだったんだよね。

ゆき そうだったんだ。自分のせいであって辛いよね。私も婚約してた人いたんだけど、彼すごい子供好きな人だったから。

新藤 してたって別れちゃったの？

ゆき うん。

新藤 子供が理由で？

ゆき うーん、それもあるけどそうじゃないっていうか。まあでも縁がなかったんだよ、彼とは。

新藤 そうなんだ？

ゆき 新藤さんは諦めてないんでしょ？

新藤 何を？

ゆき だって勃つか確かめにきたってことはさ、また勃つたら奥さんとしたいのかなって思っただけ。

新藤 あー、そうだね。でもやっぱ無理なんじゃないかって思うんだよな。

ゆき 難しいね。

新藤 本当たかがセックスにこんな悩んでるのもバカみたいだよな。

ゆき たかがセックスなんだろうけど、されどセックスでもあるんだよ、きつと。

新藤 そうか。

ゆき そうだよ。

新藤 なんか少し気が楽になったよ。

ゆき なら良かった。

新藤 そういやお腹減ってきたな。

ゆき 実は私も。

新藤 時間まだ余ってるよね。ご飯でも行かない？

ゆき え、行く行く！

新藤 もう遅いし飲み屋くらいしかやってないけど。

ゆき 全然大丈夫。

新藤 そう？ ま、ご飯屋さんは今度行こうか。

ゆき え、それってまた呼んでくれるってこと？

新藤 ゆきちゃんが嫌じゃなければ。

ゆき 嫌なわけではないし。

新藤 じゃあ、準備しよっか。

ゆき うん。

二人、バスルームの方に向かう。
暗転。

ラブホテル。

スライド「2025年2月」「新規フリー 90」が映る。

里中、姿勢をピンと正した状態でソファに腰かけている。

まりあ、浴槽にお湯を入れにいていたが部屋に戻ってくる。

まりあ ……緊張してます？

里中 はい、ちよつと。

まりあ 風俗はじめてとかですか？

里中 あ、はい、そうなんです。

まりあ そっかー、はじめてかー。

まりあ、里中の隣にぴったりとくつつく。

里中、体を硬直した後、まりあから少し距離をとる。

まりあ、また里中の隣にくつつく。

里中 (立ち上がって) なんか、飲み物とかないですかね。

まりあ あー、多分この辺に……。

まりあ、棚のところに向かう。

里中、まりあの後ろについていく。

まりあ、棚の扉を開く。

扉の中には、大人のおもちゃ自販機が入っている。

まりあ あ、こつちじゃなかった。

里中 これって……。

まりあ おもちゃ。使う？

里中 いえ、そんな大丈夫です。

まりあ オプション代かかっちゃいますしね。

里中 はあ。

まりあ、隣の扉を開ける。冷蔵庫が入っている。

まりあ あ、ありましたよ。

里中 どうも。

里中、お茶を取る。

里中 あの、何か飲みますか？

まりあ あ、じゃあお水いいですか？

里中 (水を取って) どうぞ。

まりあ ありがとうございます。

里中、立ったままお茶を飲む。

まりあ そんな立ったまま飲まなくても。

里中 あの、僕はじめてで。

まりあ ……あ、もしかしてセックス自体が？

里中 ……すみません。

まりあ え、なんで謝るの？

里中 こんな三十も超えて童貞とか気持ち悪いですよ。

まりあ そんなことないよ。それに女遊びしまくってる人より全然良いと思いますよ。

里中 ……。

まりあ もー。誠実なことじゃないですか。

里中 でも流石に一回もしたことないって引きませんか？

まりあ 私は引きはしないけど。それに、知り合いにも三十過ぎても童貞の人とか処女の人結構いますし。

里中 ……そうなんですか？

まりあ はい。皆人間的に素敵な方たちだし、相手がいないのが不思議だけど。たまたまきっかけを逃しちゃっただけだろうなって。

里中 そうなんですね。…あの、実はその、好きな人がいて。その人がこの前「三十

過ぎて童貞とかないわー」って言ってる。

まりあ え、それ直接言われたんですか？

里中 いえ、違う人のことでしたけど。

まりあ そういう風に言う人もいるとは思いますが、私は素敵だと思いますよ。よく彼女何人もいるだとか、経験人数百人だとか言う人いるんですけど、全然自慢できることじゃねーってな。ってごめん、口悪くなっちゃった。ていうか康太さん、三十超えてるって何歳ですか？

里中 三十二歳です。

まりあ え、私も。同級生だ。

里中 あ、そうなんですね。

まりあ 同級生だしタメ語でいこ！ ね！

里中 はい。

まりあ ……。

里中 あ、うん。

まりあ うん！

里中 ……あの、そんなわけで今日はよろしく願います。

まりあ そんな堅苦しくならないでー。

里中 うん。

まりあ ……ていうかさ、好きな人が色々言ってたから風俗きたんだよね？ なんでソー
プじゃなくてデリヘルにしたの？ 本番できないのに。

里中 いきなりソープはちょっと怖くて。

まりあ あ、じゃあいつかソープも行くつもりだったんだ。てことは脱童貞したら、好き

な人に告白するとか？

里中 ……まあ、できたらとは思ってるけど。

まりあ そうなんだ、いいねいいね。

里中 でも、ソープ行ってもお姉さんみたいな人に当たるかわからないし。

まりあ えー大丈夫でしょ。ていうか、お姉さんじゃなくて、まりあね。

里中 ……まりあさん。

まりあ よし！

里中 ……。

まりあ もー、そんな顔して。…じゃあさ、しちゃう？

里中 え？ しちゃうって何を？

まりあ セックス。

里中 え！？

まりあ プラス一万ならいいよ。

里中 いいの？

まりあ いいよ。どうする？

里中 ……じゃあ、お願いします。

まりあ、里中に近づき服を脱がせようとする。

まりあ 脱いで脱いでー。

里中 あ、うん。

まりあ まだ緊張してる？

里中 もっと緊張してきた。

まりあ 折角だし、楽しもう。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「53分」

再び明かりが入る。

まりあ、里中、バスローブ姿でそれぞれ缶ビールを持ってソファに座っている。

まりあ 脱童貞おめでとー！

里中 ありがとう。

まりあ、里中、乾杯する。

里中 ……あの、ごめん、時間かかっちゃって。緊張して全然勃たなくて。

まりあ いいのいいの。無事できたんだし！ ね？

里中 本当にありがとう。

まりあ いいえ、これで告白もできるね。

里中 あ、うん……。

まりあ そうだ。お金もらってもいい？

里中 えっと、一万円だっけ。

まりあ うん、ごめんね。

里中、お財布から一万円取り、まりあに渡す。

まりあ ありがとー。

里中 あのこと……。

まりあ 何？

里中 あ、いや、いつもこうやってセックスしてるの？

まりあ ううん、してないよ。って全然信用できないかもだけど。

里中 いや、まあ……じゃあさ、そのどうして僕としてくれたの？

まりあ ……康太さんがね、夫とダブって。

里中 まりあさん結婚してたの！？

まりあ うん。夫もね、付き合った当初三十超えてたけど童貞で。康太さんと同じように自分が童貞なこと気にしてたから。

里中 なんで結婚してるのに風俗で働いてるの？

まりあ ホントだよ、私もなんでだよって思う。

里中 ……旦那さんとうまくいってないとか？

まりあ うーん、どうなんだろ。仲悪くはないんだけどね。まあでもセックスは随分してないかな。

里中 セックススレスレってこと？

まりあ うん、二年位してない。

里中 へー、結婚するとセックススレスレになるって聞くけど、まりあさんのところもそうなんだ。

まりあ まあ、そうだね。

里中 やっぱりセックスできないのは女性でも辛いんだ？

まりあ 辛いとはまた違うけど。でもちよつと寂しいかな。

里中 そっか。ここで働いたら寂しさは埋まるの？

まりあ ……。

まりあ、里中の頬にキスをする。

里中、目をきよとんとさせる。

まりあ 私ね、康太さんと会えて、今日すつごく楽しかったよ。

里中 え、あ、うん。

まりあ さっきも言ったけどさ、私は康太さんの誠実なところ、本当に素敵だと思うから、ずっとそのままでもいいな。

里中 ……。

まりあ 本当は康太さんには最初のセックスは好きな人とやってほしいって思ったんだけど、康太さん風俗で済まそうって気持ち固まってたみたいだし。だったら私が協力したいなって思ったんだけど、私で大丈夫だった？

里中 それは勿論。

まりあ なら良かった。……好きな人とうまくいくといいね。

里中 どうかなあ。

まりあ 何？ 告白の練習もつきあおつか？

里中 え、いいよ。

まりあ 私を好きな子だと思って。ほら。

里中 いいって。

まりあ えーつまんないなー。

里中 面白がらないでよ。

まりあ ごめんごめん。……じゃあパワーだけ送っとく。

里中 パワー？

まりあ、里中を思いっきり抱きしめる。

まりあ (抱きしめながら) パワー！

里中 ちょ、苦しい。苦しいって……。

まりあ (腕を解放して) 伝わった？

里中 伝わった。

まりあ 頑張れそう？

里中 ……まあ。

まりあ 足りなかったか、じゃあもう一回——

里中 足りた足りた、足りたから。

まりあ、逃げる里中を追いかけ、再度抱きしめる。

まりあ パワー！ 伝わった？

里中 伝わった。

まりあ 頑張れそう？

里中 頑張るよ。

まりあ 頑張れ！

まりあ、里中の背中をバシんと叩く。
暗転。

ラブホテル。

スライド「2025年5月」「新規フリー 90」が映る。

れん、一ノ瀬、離れたところに座っている。

一ノ瀬、スマホをずっと弄っている。

れん あの一。

一ノ瀬 ……。

れん 何見てるんですか？

一ノ瀬 さっきも言ったけど好きにしていよ。

れん 好きにと言われても……。

一ノ瀬 携帯でも見てれば？

少しの間。

れん 折角だしなんか喋りませんか？

一ノ瀬 だからそういう気分じゃないんだって。

れん ……それにしてもたまに上司に連れられてくる方いらっしやいますけど、お付き合いも大変ですね。

一ノ瀬 ……。

れん 風俗興味ない人は興味ないですもんね。ていうか風俗嬢嫌いだったりしたら、この時間ただの地獄ですよ。すいません。

一ノ瀬 ……あなたが悪いわけじゃないでしょ。

れん ……優しいんですね。

一ノ瀬 は？ なんで？

れん いや、なんていうか、気を遣ってくださいあってありがとうございます。

一ノ瀬 ……別に。

れん あれですか、パートナーの方に悪いとかですか？

一ノ瀬 ……。

れん 一ノ瀬さんみたいにパートナーを大切にされてる方、素敵だと思います。

一ノ瀬 ……。

れん え、ていうかパートナーの方いるのに連れてくるとか上司の方ひどいですね？

一ノ瀬 あのさ、黙っててくれる？
れん ……すいません。

一ノ瀬、大きな溜息を吐く。

れん あのさ、もし女とラブホテルにいるってことが嫌だったら大丈夫だから。俺、心は男だし。

一ノ瀬 ……は！？

れん だから心は男なんだって。

一ノ瀬 ……何ふざけたこと言ってるの？

れん いや、本当のことだし。

一ノ瀬 本当のことって、からかうなよ。

れん いやいや、全然からかってないし。

一ノ瀬 だったら何でこの仕事してるんだよ。

れん 俺、好きになる対象は男なんだよね。

一ノ瀬 男！？

れん 男。

一ノ瀬 ちょっと待って、意味わかんねーし。

れん だからトランスジェンダーでゲイな訳。

一ノ瀬 ……。

れん おけー？

一ノ瀬 お、おう。

れん これで安心だ！

一ノ瀬 パニックだよ。

れん パニックか。よし、深呼吸しよ。立って！ はい、吸ってー吐いてー。ほら、きちんとやって！ はい、吸ってー吐いてー、吸ってー吐いてー。…落ち着いた？

一ノ瀬 落ち着くか！

れん 落ち着かないか。

一ノ瀬 ……あんたみたいな奴もいるんだな。

れん 珍しい？ 今じゃ普通だと思うけど。

一ノ瀬 そうじゃなくて、風俗に。

れん あー。でも言っていないだけでそういう人もいるって。俺もはじめて言ったし。

一ノ瀬 なんで今言ったの？

れん だってあんな気まずい時間一時間半も耐えるなんてしんどいって。

一ノ瀬 それは、……ごめん。
れん 本当だよ。まあでも、今こうして普通に話してくれてるし、俺の勝ちだな。
一ノ瀬 勝ちって。
れん 勝ちだろ。
一ノ瀬 まあそういうことにしとくよ。
れん でもさ、真面目だな、一ノ瀬さん。
一ノ瀬 え？
れん 遊ぶの受け付けないって。すげーよ、お前。
一ノ瀬 あ！？
れん いや、誉め言葉誉め言葉。でもよっほどだなんて思って。なんで？
一ノ瀬 あーいや、今女が信用ならなくて。
れん 何かあったの？
一ノ瀬 婚約者と急に連絡つかなくなったんだよね。
れん どの位前から？
一ノ瀬 一年位前。
れん だいぶだな。ていうかそれ大丈夫？ 事件とか事故とかの可能性もあるんじゃない？
一ノ瀬 どうだろ。彼女の家行ったら、荷物とか撤去されてたし。
れん え、結婚詐欺！？
一ノ瀬 そんな金持ってたわけじゃないし。貢いでもないし。
れん じゃあなんだろう。そんないきなり消えるって、よっほど会いたくないってことだろうし。ってごめん。
一ノ瀬 いいよ。自分でもわかってるし。
れん ……次行けたら楽になるんじゃない？
一ノ瀬 いやー暫くはいいよ。疲れた。
れん 彼女作らなくても、遊ぶのなら気楽じゃん？
一ノ瀬 面倒くさい女とあたらたら大変じゃん。
れん だからこういう店でさ。
一ノ瀬 えー。
れん (自分に指をさして) リハビリしない？
一ノ瀬 あんと？
れん そう。ちょうどいいんじゃない、女じゃないし。
一ノ瀬 つつても体バリバリ女だしな。
れん だからリハビリになるんじゃない。
一ノ瀬 てか、やけに押してくんな。
れん 折角来てくれたのにしないの勿体くない？
一ノ瀬 しないで済むなら楽なんじゃないの？

れん 楽っちゃ楽だけど、私男の人感じてるの見るの好きだからさ。
一ノ瀬 おお。

れん それに一ノ瀬さん面白いし色々楽しそうだし。どう？ やらない？

一ノ瀬 あんた、だいぶおかしいな。

れん ありがとう。よく言われる。で？

一ノ瀬 やらない。

れん つめたっ！（一ノ瀬の服を脱がせながら）でも無理やりはよくないからね。仕方ないか。

一ノ瀬 って何勝手に脱がせてんだよ。

れん あれおかしいな、手が勝手に。いやー不思議だなー。

一ノ瀬 わかったよ、やるよ。やるから。

れん うっし、そうこなくっちゃ！

一ノ瀬 色気なさすぎだろ。

れん これから色気出してくから。

一ノ瀬 ほんとかよ。

れん ホントホント。惚れるなよ？

一ノ瀬 惚れるか、バカ。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「37分」

再び明かりが入る。

れん、一ノ瀬、バスローブ姿でそれぞれ座っている。

れん どう？ リハビリになった？

一ノ瀬 いやー、男相手だったしなー。

れん それ言う？

一ノ瀬 事実だろ。

れん 良い身体してるって言われるんだけどな。

一ノ瀬 ていうか、女の身体なわけじゃん？ 嫌じゃないの？

れん 嫌だよ。

一ノ瀬 よくこの仕事できるな。

れん 攻めてる分には楽しいから。好きなタイプの男性だったら燃えるし。

一ノ瀬 攻められるのは嫌なんだ？

れん 自分が女の身体だって思い知っちゃうからね。いやー、早く胸とりたいわー。

一ノ瀬 とりたいてって、手術するの？

れん お金貯まったらね。

一ノ瀬 手術とか大変そうだなー。

れん 胸とるのはそこまでだよ。(一ノ瀬の陰茎を見て) そっち作るのは大変だけど。

一ノ瀬 そっちって。え、作れるの？

れん 作れる作れる。まあなんかデメリットが多いみたいだから作らないつもりだけど。憧れるよねー。

れん、一ノ瀬の陰茎を触ろうとする。

一ノ瀬、れんの手をかわす。

一ノ瀬 ちよっ、この変態が。

れん いいじゃん。減るもんじゃないし。触らせろよー。

一ノ瀬 誰が触らせるか。

れん さつきは感じまくってたくせに。

一ノ瀬 はー！？ ったく、あんたと話しているとバカバカしくなってくるよ。

れん そう？ 何事も楽しんだもん勝ちでしょ。

一ノ瀬 ……まあそうだよな。

れん また真面目モードなっちゃって。彼女のこと思い出しちゃった？

一ノ瀬 思い出したら悪いかよ。

れん まあわかるけどね。俺も前の夫と離婚した後は引きずったし。

一ノ瀬 え、結婚してたの！？

れん してたしてた。

一ノ瀬 ……なんで別れたの？

れん 自分が女であることが無理になっちゃって。夫に言ったんだよね「男になりたい」って。そしたら受け入れてもらえなかったって訳。まあそりゃそうだろうって感じだけ。

一ノ瀬 そうなんだ。

れん でも今は良い思い出だよ。

一ノ瀬 ……俺も良い思い出って言えるようになるかな。

れん ……。

れん、枕を一ノ瀬に投げつける。

一ノ瀬 何すんだよ。

れん なんとなくだよ。

一ノ瀬 このやろ！（れんに枕を投げつける）

れん ごめんつてば。

一ノ瀬 ……また気が向いたら来るよ、リハビリ。

れん え、ほんとに！？ てか、私の名前覚えてる？

一ノ瀬 覚えてない。

れん れんね、れん。覚えた？

一ノ瀬 来たとしても、あんたじゃない子にするよ。

れん えー、それは……まあ仕方ないか。

二人、笑う。

暗転。

ラブホテル。

スライド「2025年11月」「フリー 90」が映る。

あい、里中、ソファに座っている。

里中 若いと思ったらまだ大学生なんだ。何年生なの？

あい 大学四年です。

里中 就活は終わったの？

あい はい。私の学校、卒論もないのであとは卒業待つのみです。

里中 しっかりしてるんだね。卒業したら風俗はやめるの？

あい 最初はお給料低いでしょうし、暫くは働くつもりです。

里中 そうなんだ。

あい 里中さんはどんなお仕事されてるんですか？

里中 …… 研究員っていったらいいかな。

あい どんなこと研究してるんですか？

里中 地球環境とかそういうの。

あい へー、なんか格好良いですよ。

里中 そんな全然格好良くなんかないよ。籠って研究してダサいって言われたこともあるし。

あい そんなダサくなんてないですよ。それに里中さんの研究で環境良くなるかもなんですよ？ むしろすごいです！

里中 そうかな？

あい はい。ていうか研究員って全然休みないイメージですけど、休めます？

里中 うん。たまにこうして癒してもらってるし。

あい じゃあ今日はゆっくりしよっか。

あい、里中にピッタリくつつく。

里中、あいを押し倒す。

あい、それをなんとか押し返そうとする。

あい ちょっと待って。まだお風呂入ってないですよ。

里中 ちょっと触る位ならいいでしょ。

あい えー、でも昼間暑くて汗かいちゃったし、きちんとお風呂入りたいです。
里中 僕そういうの気にしないよ。

あい 私は気にするんです。

里中 そうなの？

あい それにお風呂でイチャイチャしたくありません？

里中 それはしたいけど。

あい でしょ？ ……お湯そろそろたまったかな。

あい、バスルームにお湯がたまったか確認に行く。
それについていく里中。

あい め！

あい、再びバスルームに向かう。
再度ついていく里中。

あい もう、め！ って言ってるでしょ！

しぶしぶ戻る里中。

あい、それを確認してバスルームに向かう。
確認後、もどってくるあい。

あい まだみたい。

里中 全然いいよ。そうだ。オプションでつけたおもちゃ持ってきてくれた？

あい あ、ごめんなさい。出してなかったですね。

あい、鞆からおもちゃを取り出し、おもちゃにコンドームを装着する。

里中 あいちゃんはおもちゃ好き？

あい うーん、私はおもちゃより直接のがいいかな。
里中 へー。じゃあこれあんまり好きじゃない？
あい たまにだと楽しいですよ。
里中 そう。(おもちゃのスイッチを入れて) おー、結構激しい。
あい ……(里中の手からおもちゃを取り上げ) ベットの近くに置いておきますね。
里中 あいちゃんは一人でするとき、おもちゃ使わないの？
あい え？
里中 いや、女性が一人でするときおもちゃ使う人結構いるって聞いたから。
あい あー、私あんまり一人ではないので。
里中 なんで？
あい そんなにしたいって思わないっていうか。それに一人でやってもむなしくなるっていうか。
里中 まあ相手いる方が楽しいもんね。
あい ですね。そろそろお風呂入りましょうか。
里中 お湯たまったの？
あい 水出る音聞こえなくなったのでたまったと思います。
里中 じゃあ入ろうか。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「19分経過」

あい いや！

再び明かりが入る。

あい、里中から逃げるように距離を取っている。

里中 何？ どうしたの？
あい 今挿れましたよね！
里中 間違えて入っちゃっただけでしょ。大げさだな。
あい 大げさって！
里中 今度に入らないように気を付けるから。
あい 今度はずって、やっぱさつきわざとだったってことですよね。

里中 違うよ。ローションで滑っちゃっただけだから。
あい 本当ですか？
里中 本当だよ。だからそんな怖い顔しないで。
あい 里中さんが変なことしなければいいですよ。
里中 もうしないから。許してよ、あいちゃん。ね？
あい ……もう素股はしませんよ。
里中 わかった、それでいいから。

再び暗転。

少しして再び明かりが入る。

里中 ちょっと待ってよ。
あい もう帰ります。
里中 なんで？
あい また挿れようと思いましたよね。さっきあんなに言ったのに。
里中 勘違いだって。あいちゃん、神経質になりすぎだよ。
あい とにかく帰るので放してください！
里中 俺まだ途中なんだけど。
あい 途中で終わらせるようなことしたからでしょ！ 離して！
里中 だってさっき直接がいいって。
あい は！？
里中 言ってたじゃん。
あい あなた何言ってるんですか！？
里中 風俗続けるのだからセックスが好きだからじゃないの？
あい 仕事でやってるだけだし！
里中 でも濡れてたじゃん。気持ち良かったんじゃないの？
あい あの、勘違いしてるみたいだからいいですけど、濡れてるように感じたのはゼリーを入れてたからだし、途中からローションも使ったし、全然気持ちよくなかったんですから。むしろ痛かったし。
里中 なっ。

あい、里中の手を振りほどき風呂場に入る。
シャワーの音。

里中、タオルを腰に巻いて、ベッドに腰かける。

暫くして風呂場からあいが出てきて、服に着替え、帰る準備をはじめ。

里中 ……痛くしたならごめん。

あい ……。

里中 そんなに怒るほどとは思わなかったんだよ。

あい ……痛かったから怒ってるわけじゃないんですけど。

里中 無理やりしたから？

あい ……。

里中 でも他の人はやらせてくれたけど。

あい 他の人はどうか知らないですけど、妊娠したりしたらどうするんですか？

里中 そんなちよつと入ったくらいじゃ妊娠しないって。

あい ……お店に報告しますの。

里中 は？ なんで？

あい 失礼します。

あい、部屋を去る。

里中 女ってわかんねー。

暗転。

ビジネスホテル。

スライド「2026年6月」「フリー 120」が映る。

一ノ瀬、スマホをずっと弄っている。

そこに、ゆきが部屋のチャイムを押す。

一ノ瀬、扉を開ける。

ゆき、一ノ瀬、お互いの顔を確認すると暫く固まる。

一ノ瀬 ……南。

ゆき、我に振り返りその場を去ろうとする。

一ノ瀬、去ろうとするゆきの腕を掴む。

揉み合う二人。

一ノ瀬 何してるの。

ゆき 離して。

一ノ瀬 離さない。

ゆき お願いだから離して。

一ノ瀬 何してんだよ、こんなところで。

ゆき ……。

間。

ゆき ……話すことない。

一ノ瀬 俺は話しがしたい。 ……ずっと会いたかった。

間。

一ノ瀬 ……店、電話しなくていいの？

ゆき、店に電話をかける。

ゆき ……ゆきです、入室しました。……はい。はい、失礼します。(電話を切る)

一ノ瀬 (財布を取り出し) お金、三万五千円だったよね。

ゆき いない。

一ノ瀬 ……働いてるんでしょ。何？ 自腹切るの？

ゆき ……。

一ノ瀬 (ゆきの手にお金を握らせ) はい。

ゆき、お金を握ったまま動かない。

一ノ瀬、動かないゆきを見てお金を再度取り、ゆきの鞆から財布を取り出す。

一ノ瀬 ……俺のあげた財布、まだ使ってくれてるんだ。

ゆき ……気に入ってるだけ。

一ノ瀬 ありがとな。

ゆき ……何で優しくするの？

一ノ瀬 ……元気にしたの？

ゆき ……見てわかんない？

一ノ瀬 ……何があったの？

ゆき 何がって？

一ノ瀬 風俗で働いてるって、何かあったんじゃないの？ それで急になくなったんじゃないの？

ゆき 彰には関係ないでしょ。

一ノ瀬 それ本気で言ってる？

問。

ゆき 私みたいな欠陥品、やめた方がいいよ。

一ノ瀬 欠陥品って、何言ってるの？

ゆき 本当に。彰にはもつと良い子いるよ。
一ノ瀬 そんなの俺が決めることだよね？
ゆき ……お願いだから私のことはもう忘れて。
一ノ瀬 なんで？
ゆき お願いだから。
一ノ瀬 無理。
ゆき 無理って。
一ノ瀬 無理だから無理って言ってんの。
ゆき なんで…私にはそんな価値ないの。
一ノ瀬 知るかよ、そんなの。
ゆき ……。
一ノ瀬 教えてよ、何があったか。ていうか言ってくれるまで帰さないし。

間。

ゆき ……検査したの。
一ノ瀬 検査って何の？
ゆき 子供産めないか。
一ノ瀬 ……前に子供は産めないかもって言ってなかったっけ？
ゆき そうなんだけど。
一ノ瀬 性腺機能不全だっけ？ ていうか、俺別に子供いなくてもいいって言ったよね？
ゆき でも彰、子供好きじゃん。
一ノ瀬 好きだけど、マストじゃないって言ったでしょ。気にすることないって。
ゆき そうじゃなくて！ 私が彰との子供欲しいって思ったの。だから。
一ノ瀬 ……それで？ だめだったの？
ゆき できる訳なかった。
一ノ瀬 そっか。
ゆき ……私、女じゃなかったの。
一ノ瀬 ……何？ どういうこと？
ゆき 女じゃなかった。
一ノ瀬 ごめん、意味わかんないんだけど。南は女だろ？
ゆき 染色体が男だったの。
一ノ瀬 染色体？
ゆき 子供のころ、子宮じゃなくて精巣があったんだって。小さい頃手術したみたいなんだけど。私何も聞かされてなくて。お母さん、私に言ったら受け入れられない

んじゃないかって、ずっといつ言うか悩んでたって。なんか、私自分がわかんなくなっちゃって。女でも男でもなくて、一体何者なんだろうって。何者でもない私はバケモノなんじゃないかって。それで、それで――

ゆき、嗚咽で言葉が出なくなる。

一ノ瀬、ゆきを抱きしめる。

一ノ瀬 わかった。わかったから。

ゆき ……。

少しの間。

一ノ瀬 女だとか男だとかわかんないけど、南は南でしょ。違う？

ゆき ……わかんない。

一ノ瀬 お前は川口南だよ。それでいいじゃん。

ゆき そんな簡単に割り切れてたら、こんなになってない。

一ノ瀬 まあそうだろうけど。でも俺には南が変わったようには見えないし、何も問題ないんだけど。

ゆき 問題ないって、何でそんなこと言えるの？

一ノ瀬 だってそうだよ。それとも何？ 戸籍男にするとか？

ゆき 戸籍は女だけ。

一ノ瀬 じゃあ普通に結婚もできるじゃん。ほら何も問題ない。

ゆき 結婚？

一ノ瀬 しないの？

ゆき 何言ってるの？

一ノ瀬 だから結婚しようって言ってるの。

ゆき 意味わかんないよ。

一ノ瀬 何が？ ていうか、いきなりいなくなる方が意味わかんねーし、ありえないから。

ゆき それは……ごめんなさい。

一ノ瀬 会えたからいいけど。……もう急にいなくなるとかやめろよ。

ゆき ……。

一ノ瀬 返事は？

ゆき ……はい。

一ノ瀬 ……ほんとバカだな、南は。
ゆき バカじゃないよ。

一ノ瀬 バカだよ。

ゆき バカじゃない！

一ノ瀬 ……さつき女とか男とかわかんないって言ったけどさ、俺にとっては南は女の子だから。

ゆき ……うん。

一ノ瀬 ……会えて良かった。

暗転。

スライドが映し出される。「1時間5分」

ゆき、一ノ瀬、ベットに横になっている。

一ノ瀬 あのさ。

ゆき 何？

一ノ瀬 なんで風俗で働くことにしたの？

ゆき ……女として必要とされたら、女でいられる気がして。

一ノ瀬 それで安心できたの？

ゆき (首を横に振る)

一ノ瀬 早く辞めなよ、仕事。

ゆき うん。ていうか、彰こそ風俗行く人だったんだね。

一ノ瀬 無理やり上司に連れてこられたんだよ。

ゆき でもはじめてじゃなかったよね？

一ノ瀬 ……誰かさんのせいで女にトラウマができたからリハビリですよ。

ゆき ……ごめんさい。

一ノ瀬 ていうか彼女が風俗で働いてたのに怒らない俺、優しくくない？

ゆき 優しいです。

一ノ瀬 まあでも、もう来ないよ。

ゆき 本当に？

一ノ瀬 本当に。……このあと何時までなの？

ゆき 今日はもう終わり。

一ノ瀬 そっか。じゃあ一緒にご飯食べようよ。

ゆき 店に辞めるって言うからちよっと時間かかるかも。寮の荷物も整理したいし。

一ノ瀬 寮って？

ゆき お店からマンション借りてて、辞めるなら出なきゃだし。

一ノ瀬 そうなんだ。

ゆき だからまた連絡するよ。

一ノ瀬 いいよ、待ってるから。

ゆき でも……。

一ノ瀬 俺が待っていたいだけだから。

ゆき ありがとう。

一ノ瀬 一緒に帰ろう。

ゆき うん。

暗転。

シテイホテル。

スライド「2026年9月」「本指名 150」が映る。

阿部 はい、お土産。

れん お、俺が好きなお菓子じゃん。サンキュー。っておい！ 賞味期限切れそうなんだけど。

阿部 この前来ようとしたとき、春奈休みだったんだよ。

れん ごめんごめん。寂しい思いさせちゃったな。

阿部 寂しくはないよ。

れん そういうことにしといてやるよ。

阿部 そういやさ、あいちゃんって辞めたの？ シフト全然入ってないみたいだけど。

れん あいちゃん？ なんで？

阿部 前に春奈が当欠したときついたことあって、この前久々にあいちゃんでもいいかなって思ったんだけどいなかったからさ。

れん あー。まだ暫くは休むんじゃないかな。っっていうかもしかしたらもう戻ってこないかも。

阿部 何、病気とか？

れん うーん、まあ阿部ならいつか。なんか客にやられたみたいで、妊娠しちゃったんだって。

阿部 マジで？

れん マジで。本人もびっくりしてた。中に出されたわけじゃなかったみたいだから。

阿部 我慢汁で妊娠したってこと？

れん みたい。怖いよな。

阿部 無理やりやるとかわかんないなー。

れん 阿部の場合、無理やりやられるのは好きだろ？ このMめ。

阿部 お前がSなだけだろ。

れん 嫌いじゃないくせに。そろそろお風呂行く？

阿部 ああ。

暗転。

シャワーの音。

スライドが映し出される。「40分」

再び明かりが入る。
れん、阿部、バスローブ姿。缶ビールを持ってそれぞれ座っている。

れん そういや、お見合いの話どうなった？

阿部 断ったよ。

れん お前なー、可愛い子だったのに。

阿部 まあね。

れん 片思い長すぎなんだよ。もういい加減言っちゃえって。

阿部 いや、距離置かれるだろ、言ったら。

れん 俺みたいに？

阿部 そうだよ。

れん 雄二、どノーマルだからな。

阿部 僕は別に親友ポジションでいればいいよ。

れん でもずっと言われるよ、結婚しないのかって。親友ポジションでいいなら、別に

他の人と結婚してもいいんじゃない？ 女ともできるわけだし。

阿部 カモフラージュで結婚って、相手に失礼だろ。

れん でも実際そうやって結婚してる人たちもいるじゃん？

阿部 そうなんだろうけど。

れん 真面目だな、相変わらず。

阿部 それに隠して結婚したところで長続きしなさそうだし。

れん まあ自分を偽って結婚するわけだし疲れるよな。

阿部 ……やっぱ疲れたの？ 結婚。

れん 結婚に疲れたっていうか、女でいることが無理になったんだよ。

阿部 なあ、前もそれ言ってたけど、女でいることが無理になったって、何がきっかけ

だったわけ？

れん あれ、言ったことなかったっけ？

阿部 うん、聞いてない。

れん そっか。いやさ、悟産んで、それがきっかけかな。

阿部 悟くん？

れん うん。悟が生まれたことは嬉しかったんだけど、母乳あげてたら、何で俺こんなことしてるんだらうって。確かに自分が母乳あげてるのに自分の身体じゃないみたいに感じて。でも育てるためにあげるじゃん。そうやって続けてたらさ、ああ無理だっけなっちゃったんだよね。そしたら、あんなに可愛いって思ってたのに可愛いって思えなくなっちゃって。ひどい親だよな。

阿部 それだけ無理したってことじゃないの？

れん でも自分の子供の為だったら無理とかするもんじゃん？

阿部 まあそうなのかもしれないけど。
れん 本当悟には申し訳ないよ。
阿部 申し訳ないって思ってるってことは、愛情あるってことだろ。
れん ……
阿部 ……：「そういや、この前悟くんに会ったんだけど。
れん え？　なんで？」
阿部 普通に雄二の家で飲もうってなって、それで。ゲームとか一緒にしたよ。
れん そうなんだ。
阿部 マイクラ分かる？
れん うん。俺があげたやつ。やってくれてるんだ。
阿部 春奈があげたやつだったんだ。あれさ、作ったやつ見せてくれたんだけど、悟す
れん ごいのな。きちんと街になってんの。
阿部 へー。
れん 七歳でここまで作れるのかってびっくりしたよ。
阿部 悟、レゴとかも好きだったからそういうの得意なのかも。
れん そうだったんだ。でさ、自分の家だって見せてくれたのがあったんだけど、「こ
阿部 こはママの部屋」って春奈の部屋もあったよ。
れん ……：「そっか。」
阿部 因みに僕の家も近くにあった。
れん 良かったじゃん。
阿部 まあね。
れん 悟は何が得意になってくんだろうなあ。
阿部 二人の子供だから運動神経も良いだろうしな。
れん そうだな。…：「また教えてくれない？　悟のこと。」
阿部 いいけど、自分で聞けばいいじゃん。
れん ……：「実はさ、雄二に言われてて。」
阿部 何を？
れん 男の身体にしたら悟にはもう会うなって。お金、一年以内に貯まりそうだから一
阿部 年後には会えなくなるかも。
れん 何それ。
阿部 母親が男になるって悟も受け入れられるかわかんないし、雄二が会わせたくない
阿部 って言うのもわかるよ。
れん 本当にそれでいいの？
阿部 俺の我儘だから仕方ないよ。
れん 仕方ないって。
れん いいんだって、俺の事は。
阿部 投げやりになるなよ。もう一回雄二と話し合った方がいいって。

れん もう何回も話したよ。
阿部 それでもだよ。
れん 無理だつて。雄二が頭固いの知ってるだろ？
阿部 知ってるけどさ。そんな簡単に諦めていいの？
れん 簡単じゃなかったよ！
阿部 ……
れん 仕方ないじゃん。子供の事より自分を優先するなんて親失格だつて言われたんだから。実際そうだと思うし。
阿部 ……春奈はきちんと母親やってただろ。
れん でも母でいることは辞めようとしてる。どっちも取るなんて贅沢なこと言えないんだよ。
阿部 それって贅沢なことなのか？
れん 贅沢なんじゃない？ きつと。
阿部 ……
れん ……なんで阿部がそんな落ち込んでんだよ。
阿部 僕は雄二のこと好きだけど、春奈のことも同じ位大切なんだよ。
れん そうなんだ？
阿部 そうだよ。なんだかんだ春奈といるのが一番楽だし。わかるだろ？
れん ……まあわかるよ。
阿部 ……何で性別とかあるんだろうな。
れん 子供作るためだろ。
阿部 そりゃそうだけど。
れん それに男だとか女だとか性別に一番囚われてるのは俺たちみたいな人間だろ。
阿部 そつか。
れん そうだよ。
阿部 あーもう面倒くせー。
れん 本当にね。……いつそ結婚しちゃう？
阿部 は？
れん だから、結婚。
阿部 僕と春奈で？
れん そう。
阿部 いやいや、何言ってるんだよ。
れん 楽でいいじゃん。
阿部 お前、男になるんだろ。
れん あ、そうだった。
阿部 そうだったじゃないだろ。つたく。
れん 良い案だと思ったんだけどな。

阿部 どこが良い案なんだよ。

れん まあ一番良いのは、阿部が雄二じゃなくて女性を好きになることだけど。片思い

こじらせてるからな。

阿部 うっせーなー。

れん ま、他の人好きになるまで俺が相手してやるよ。

阿部 それはそれは有難うございます。

れん、缶ビールを飲む。

れん あ、もうない。もう一本飲んでいい？

阿部 いくらでもどうぞ。

れん サンキュー。阿部も飲むだろ？

阿部 うん。

れん、冷蔵庫から缶チューハイを二本取り出し、一本を阿部に渡す。

れん 乾杯。

阿部 乾杯。

暗転。

ラブホテル。

スライド「2026年12月」「写真指名 120」が映る。

新藤、ソファに座っている。

そこに、まりあが部屋のチャイムを押す。

新藤、扉を開ける。

新藤、まりあの顔を確認して固まる。

新藤 理央……。

まりあ、にっこりと微笑んで構わず部屋に入り、ソファに座る。

新藤、その様子をただ見ている。

まりあ いつまでそこ突っ立てるの？

新藤 いや、だって。

まりあ 座りなよ。

新藤 ……。

まりあ、店に電話する。

まりあ お疲れ様です、まりあです。あ、お客様なんですけど夫だったんです。……あ、

大丈夫です。でも色々話すことになりそうなので今日はこれで終わりにしてもら

えますか？ ……はい、すみません。お金はきちんと言っておくので次の出勤の

時に渡します。……はい、では失礼します。(電話を切る) お金。

新藤 え？

まりあ 三万六千円。

新藤 ああ。

新藤、お財布からお金を取り出そうとする。

まりあ 残念だったね、ゆきさん辞めちゃって。

新藤 え？

まりあ ずっと指名してたんでしょ？

新藤 なんで……。

まりあ お店の人から聞いた。「ゆきさんのお客さんだったんですが、その後はまだ決ま
ってないので頑張ってくださいね」って。そんなに良かった？ ゆきさん。

新藤 話が合っただけだよ。ていうか理央こそなんでこんなところで働いてんの？

まりあ こんなとこって、そんなとこにあなたは何回も来てるわけだけだね。

新藤 話しそらすなって。なあ、何で？

まりあ ……和彦がこの店を利用してるとって知ったから。

新藤 は？

まりあ ばれないとも思った？

新藤 いや、だからってそれで働くとか意味わかんないんだけど。

まりあ そうだろうね。私もどうかしてると思うし。

新藤 分かってるなら——

まりあ どうかしてるでしょ？ パートナーがいるのに他の人と身体を重ねるなんて。で
もさ、あなたが最初にそれをしたんだよ？ 私には触れてもくれないくせに。

新藤 それは……疲れてたからで。言っただろ？

まりあ じゃあ何？ 疲れてないとき店来てるんだ？

新藤 ……。

まりあ ……あー、だめだ。何でって言ったよね。気が狂いそうだったからだよ。あなた
が他の女とヤツてるって思ったからおかしくなりそうだったの。だから私もあなた
と同じ事したら少しは収まるかなって思ったの。バカなことしてるよね。でもね、
それで少しは自分を保てたの。むなしかったけど、おかしくならぬで済んだの。

新藤 理央。

まりあ こんなことしても何も解決しないのわかってたよ。でも和彦、私と全然向き合っ
てもくれなかったし。

新藤 ごめん……。

まりあ 私が子供のことで追い込んだから仕方ないってそう思ってたのに、なんで
他の人とやるの？ そんなに私の事、もう女として見れない？

新藤 そんなこと——

まりあ じゃあなんで！？

新藤 俺だって理央としたいよ。でも自信がないんだ。また勃たなかったらって思っ
た。

まりあ ……ゆきちゃんたちにはどうだったの？

新藤 ……。
まりあ なんて何も言わないの。
新藤 ごめん。
まりあ ごめんって、何に対して謝ってるの？
新藤 ……。
まりあ ……私としたいって思ってたのは本当？
新藤 ああ。
まりあ じゃあ今からしようよ。
新藤 え？
まりあ だめ？
新藤 ……。
まりあ ……冗談。気にしないで。
新藤 ……しよう。
まりあ え？
新藤 言っただろ。理央としたかったって。

新藤、まりあの手を掴み、ベットの方に連れていく。
二人、ベットに倒れる。

暗転。

スライドが映し出される。「22分経過」

再び明かりが入る。

ベットに向かい合っている二人。

新藤 ……ごめん。
まりあ 謝らないでよ。私が無理に誘っただけだし。気にしないで。
新藤 ……。
まりあ ……さっき色々言ったけどさ、風俗使ってもいいよ。
新藤 なんて？
まりあ 私とできないんじゃないや他に行くのしようがないよなって思って。
新藤 いや、もう来ないって。
まりあ あ、でも浮気は無理だからやめてほしいけど。
新藤 お前何言ってるんだよ。
まりあ とにかく本当大丈夫だから。
新藤 大丈夫って…。
まりあ だってさ、和彦、私としてるとき、すごいしんどそうな顔してるんだもん。

新藤 それは焦ってたからで。

まりあ 私が嫌なの。

新藤 嫌って何が？

まりあ あんな顔見せられて、私だってしんどいよ。

新藤 ……。

まりあ ……ごめんね。

新藤 なんで理央が謝るの？

まりあ いや、私が追い詰めたからだよね、きつと。

新藤 いや、俺が…俺が勝手に自分を追い込んでたんだよ。理央との子供欲しかったから。それに不妊治療までしてもらったのにダメだったのも大きかったんだと思う。

まりあ ……もしかして私が不妊治療やめたせい？

新藤 何が？

まりあ その後だよね、その、勃たなくなったの。

新藤 ……。

まりあ ごめん。私もう少し頑張れば良かったね。

新藤 理央は頑張ってくれてたよ。

まりあ でも…。

新藤 そもそも俺がいけないんだし。それに前も言ったけど、理央が辛そうにしてるのを見るの、俺もしんどかったから。それでも諦めきれなくて自分からタイミング法だけ続けようって言ったのに、こんなことになって本当にごめん。

まりあ 和彦が諦めないでくれたの嬉しかったよ。…ねえ、和彦。

新藤 何？

まりあ 私ね、さつき久しぶりに和彦が触れてくれて嬉しかったんだよ。

新藤 でもさつきしんどいって。

まりあ それはあなたが辛そうな顔してたことであって、行為自体は幸せだったんだよ、あなたを感じられたから。

新藤 ……俺も。

まりあ 本当に？ すごい顔してたよ？

新藤 それは…まあそうだったのかもしれないけど。

まりあ 最後までできないの、男の人に見てみたら辛いかもしれないけど、私はまたあなたとしたいよ。

新藤 最後までできなくても？

まりあ うん。和彦は？ やっぱ辛い？

新藤 いや、理央がいいって言うなら。

まりあ もー、だからいいって言うてるでしょ。

新藤 そっか。

まりあ そうだよ。

新藤、まりあの膝に顔を埋める。

まりあ 何？ どうしたの？

新藤 いや、なんか気抜けて。

まりあ じゃあいつそ泊ってく？

新藤 泊まるって、ここに？

まりあ そう。和彦とラブホ来るなんてもうないだろうし。

新藤 まあ確かに。

まりあ でしょ？ 何する？ 映画とかも見れるし、あ、カラオケとかしちゃう？

新藤 それもいいな。

まりあ よし、じゃあ折角だし楽しもう。

新藤 そうだな、楽しもう。

暗転。

ラブホテル。

スライド「2027年3月」「フリー 90」が映る。

下半身不随になった氷室が車椅子に乗っている。

こころ、部屋の扉の前につきチャイムを鳴らす。

氷室、車椅子に乗ったまま扉に向かい開ける。

こころ、氷室を見て一瞬たじろぐがすぐに笑顔を向ける。

氷室 入って。

こころ あ、はい。

こころ、氷室に続いて部屋に入る。

氷室 前、会ったことあったよね？

こころ はい、お久しぶりですね？

氷室 えーと、名前。

こころ ところです。

氷室 そうだ、こころちゃん。嬉しいな、また会えるなんて。前に会った後何回か指名しようと思ったんだけどこころちゃんいつも予約埋まっててき。ていうか俺のこころと覚えてる？

こころ 覚えてますよ、勿論。

氷室 本当？ あれ何年前だろ？

こころ 二年……いや三年前とかじゃないですかね？

氷室 そんなになるのか。元氣だった？

こころ はい。氷室さんはその……。

氷室 あー事故にあっちゃってね。まあでもこの生活にもだいぶ慣れてきたから、久しぶりに来てみたんだ。

こころ 大変でしたね。

氷室 まあね。あ、ごめん、店に連絡しなくちゃだよ。

こころ あ、ちよつと失礼しますね。

こころ、タイマーをセットし店に電話をかける。

こころ 　こころです。今入室しました。……はい、じゃあ失礼します。(電話を切る)

氷室 　お金、いくらだったっけ？

こころ 　あ、即尺オプシオンついて三万円です。

氷室 　三万円ね。

氷室、お財布からお金を取り出す。

こころ 　一応確認しなくちゃなんですけど、お風呂って済んでますか？

氷室 　うん、家が入ってきたよ。

こころ 　ありがとうございます。

氷室 　風呂、終わった後もいいから。ここじゃ入れないし。

こころ 　そうですね。

氷室 　……なんか俺みたいなのでも慣れてるね。

こころ 　え？

氷室 　いや、俺以外にも車椅子の人とか来たりするの？

こころ 　車椅子の方は氷室さんで二人目なんですけど、よく呼んでくださる方で全身麻痺

の方がいます。

氷室 　全身麻痺？ え、それできちんとイけるの？

こころ 　はい。ただその方喋ることもできないので、いくタイミングがわからないんですよ。だから毎回いつくるいつくる？ って身構えています。

氷室 　へー。こころちゃんはさ、障害者の人相手にするの嫌じゃないの？

こころ 　嫌じゃないですよ。嫌だったら断ってますし。

氷室 　確かに他の子には断られたけど。

こころ 　……何かあったらって思うんじゃないかな。私は気にしないので。今日は楽しま
ましよう。ね？

氷室 　ああ。

こころ 　あ、車椅子祖父も乗ってて少しなら介助できるので、何かあったら言ってください
いね。

氷室 　ありがとうございます。でも大丈夫。一人でできるから。

氷室、ベッドに向かい、車椅子からベッドへ移ろうとする。

氷室 (移動しながら) ちょっと時間かかるから、服脱ぐの待っていてくれるから。
氷室 あ、はい。……やっぱ一人でできるようになるまで時間かかりました？

氷室 そうだね、そんな若くもないし筋力もあんまりなかったから大変だったよ。
氷室 上半身筋力ないとできなさそうですもんね。

氷室 まあね。
氷室 (車椅子を動かし) 服、手伝いますか？

氷室 いいよ、いつも一人でやってるから。
氷室 ご家族に手伝ってもらったりとかしないんですか？

氷室 妻とは別居中だから。
氷室 え。

氷室 ああ、勘違いしないで。娘が受験の年だったから、俺がこんなだったら勉強集中
できないだろ？

氷室 家族おもいですね。

氷室 ……こころちゃんももう脱いじゃって。

こころ あ、はい。

二人、服を脱ぎ始める。

暗転。

スライドが映し出される。「36分」

再びシャワーの音。

明かりが入る。

こころ、洋服に着替えている。

氷室、ベッド上から少し遠くにいつてしまった車椅子を手繰り寄せようとしている。
うまく引き寄せられず、ベッドから床に落ちてしまう。

こころ、ドサツと音が聞こえると、急いで駆けつける。

こころ 大丈夫ですか！？

氷室 大丈夫大丈夫。車椅子寄せようとしたらちょっと失敗しちゃっただけ。

こころ ごめんなさい、私さっき車椅子動かしちゃったからですよね。

こころ、氷室の介助をしようと氷室に触れようとする。

氷室 いいから！

こころ でも……。

氷室 本当に大丈夫だから。気にしないで。

氷室、床から車椅子に移動しようとするも、すぐにはうまくいかず、何度か試みる。
こころ、それをただ見守る。

氷室、無事車椅子に移動する。

筋肉を疲労したことにより両足とも痙縮を起こしている。

痙縮を止めるため、筋肉をゆるめようと、両手で足を持ち上げたりする。

氷室 格好悪いとこ見せちゃったな。

こころ そんなことないです。

氷室 いいよ、そんな気遣わなくて。

こころ 気遣ってなんか。

氷室 ……来なきゃよかった。

こころ え。ごめんなさい、私にかしやいました？

氷室 ごめん、こころちゃんは何もしてないよ。

こころ でも……。

氷室 本当に。俺が勝手に自己嫌悪してるだけだから。

こころ 自己嫌悪って何で？

氷室 俺の、本当ボンコツになったなって。

こころ ……もつと甘えてくれてもいいんですよ？

氷室 甘える？

こころ 今は私もいるし、そんな一人で頑張らなくても。

氷室 ……ああ。別に自分でやれることはやりたいだけだから。

こころ 格好良いですね。

氷室 どこが？ 何も格好良いとこなんてないでしょ。

こころ 格好良いです。

氷室 障害者にとっては普通のことしてるだけだよ。

こころ それはそうなのかもだけど。でも自分と向き合ってるのは格好良いと思いますよ。

それに私は前に会った時より、今の氷室さんのが好きです。

氷室 なんで？

こころ だって前会った時、氷室さんすごい高圧的だったし。

氷室 そうだっけ？

こころ そうだったんです。今だから言いますが、実は氷室さんのことNGにしてみました。

氷室 え？

こころ 今日はボーイさんのミスなのかわかんないけど。でも今の氷室さんに会えて良かったです。

氷室 前の俺、そんなにひどかった？

こころ ……あのときは、私も弱かったから。

氷室 今は強くなったってこと？

こころ 前よりはですけどね。

氷室 そっか。三年あれば色々変わるよな。

こころ ですね。一年後だってどうなってるか。

氷室 こころちゃんはまだ若いから、一年大きいだろうしな。

こころ そんなに歳取ったら変わります？

氷室 変わる変わる。…でも俺もどうなってるかな。

こころ きつともっと良い男になってますよ。

氷室 どうか。でもこころちゃんは今より良い女になってるだろうな。

こころ だといいんですけど。

氷室 ……また呼んでもいいかな？

こころ ……実は、私今日が最後なんです。

氷室 そうなの？

こころ はい。

氷室 辞めちゃうのか。残念だな。

こころ そんな風に言ってもらえるなんて嬉しいです。

氷室 もしかして結婚するとか？

こころ いえ、恋人もいません。

氷室 いないの？ もつたいないな、こころちゃん良い子なのに。

こころ そんな、全然ですよ。

氷室 良い子だよ。こころちゃんにはこころちゃんのこと大事にしてくれる人と結婚してほしいな。

こころ ……氷室さんは結婚して良かった？

氷室 え？ まあそうだね。

こころ そっか。…私、恋愛感情とかそういうのよくわかんないですよね。

氷室 どういうこと？

こころ 家族とか友達とかは普通に好きなんですけど、誰かを特別に好きになるってことないんですよね。

氷室 今まで一回も？

こころ はい。

氷室　じゃあ誰とも付き合ったことないの？

こころ　何回かはあるんですけど。

氷室　それは告白されてってこと？

こころ　はい。皆「好き」がわからないのは出会ってないからだよって言うから、付き合い
てみたら「好き」がわかるんじゃないかって思って。

氷室　で、どうだったの？

こころ　よくわかりませんでした。相手にも「冷たい」とか「なんで嫉妬してくれない
の？」とか「君といても寂しい」とか言われちゃって。人として「好き」だった
から付き合い合ったんだけど、私の「好き」は彼の求める「好き」じゃなかったみた
い。

氷室　それはなかなか難しいね。

こころ　ですよね。私みたいな人、他に誰もいなくて。友達と話すときも皆コイバナが好
きなのかよく話しになるんだけど、友達が盛り上がっても全然理解できなくて、
なんていうか私一人置いてけぼりにされてるみたいに感じて。

氷室　……分かってくれる人がいないのは寂しかったね。

こころ　……。

氷室　あ、違ったらごめん。俺も車椅子になってから似たようなこと思ったからさ。

こころ　そっか。

氷室　って一緒にするのも悪いか。こころちゃんはそれでずっと悩んできたんだもんね。
こころ　ううん、ありがとうございます。それに今はちよっと割り切れるようになってき
たから。

氷室　なら良かった。

こころ　はい。

氷室　でも分かってくれる人と出会えるといいね。

こころ　です。

タイマーの音が鳴る。

氷室　時間？

こころ　みたいです。

氷室　そっか。早かったな。

こころ　本当あつという間でした。

氷室　……帰る準備しなくちゃだよ。

氷室、ソファに置いていたところのコートを渡そうとコートを取る。
こころ、氷室の後ろから氷室を抱きしめる。

氷室　こころちゃん？

こころ　最後のお客様が氷室さんで良かった。

氷室　俺も最後にこころちゃんに会えて良かったよ。

こころ　ありがとう。

氷室　俺も、ありがとう。

暗転。